

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連 (北海道)	良く なっている	一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・旅行者による国内需要の動きが、比較的、鈍い時期であるが、ゴールデンウィーク後の国内旅行者の落ち込みを外国人観光客が補っている。東南アジアからの外国人観光客を中心に、前年よりも売上が5割以上伸びており、外国人観光客が売上の底上げをしている。
		観光名所（従業員）	来客数の動き	・5月の利用乗降客数は、26日現在で前年を19%上回っており、実数でも約2万4千人と大きく伸びている。前年の5月も非常に利用乗降客数の多い月であったが、それ以上に利用者が伸びていることから景気は良くなっている。
	やや良く なっている	商店街（代表者）	販売量の動き	・前年の5月は消費税増税後の落ち込みがあったため、前年比をみると、前年を上回った店がほとんどであった。今年はゴールデンウィークが長かったことに加えて、天候が良かったことから、郊外店を中心に好調であった。ただ、ゴールデンウィーク期間が長いと出費がかさむため、ゴールデンウィーク後は中だるみ気味であった。一方、給料日後は比較的順調な消費行動がみられる。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・前年と比べて、日曜日が1日多いため、単純比較はできないが、販売量は前年を上回った。3か月前との比較でも右肩上がりになってきている。
		スーパー（店長）	単価の動き	・来客数の増加幅はまだ小さいが、客単価の上昇が顕著にみられる。
		スーパー（企画担当）	お客様の様子	・株価が上昇を続けていることが、マスコミで頻繁に報道されるため、株の非保有者も何となく景気が良いと思うようになり、消費のブレーキを多少なりとも緩める傾向にある。ガソリン価格も前年と比較すれば、大幅に低下しており、ゴールデンウィークに遠出をした家族も多いと聞いている。
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・5月はカウンタードーナツの導入効果で、来客数が前年比106%、売上が前年比102%となり、ともに前年を上回った。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・前月、前々月と比べると、ある程度安定した販売台数がみられたことから、販売量がやや増えてきている。
		高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・観光シーズンに入り、5月前半は家族連れが多く、5月後半は年配の観光客が多かった。地元客も含めると、5月の売上は前年を4%上回るなど、まずまずであった。ただ、ランチ、ディナーとも日によっては、客の半数以上がアジア系外国人の時もあり、外国人を除くとどうなるのかといった不安もある。
		一般レストラン（スタッフ）	単価の動き	・多少価格が高くても商品価値のあるメニューが売れるようになってきている。来客数は前年並みだが、客単価が前年比104%と好調である。
		スナック（経営者）	来客数の動き	・客の出がやや良くなっている。観光客も少しずつ増えてきている。
		観光型ホテル（スタッフ）	単価の動き	・高単価高単価の売上が前年よりも伸びている。
		旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・雪解けが早く、気候が安定しているため、農業などでの不安要素がなくなっており、それにともない団体需要、個人需要ともに動きが活発になってきている。
		旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・旅行業界では、季節的に夏場の旅行の受注期に入ってきたこともあり、客の動きが活発になってきている。今年の動向で特徴的なこととして、海外旅行が低迷している一方で、国内旅行が非常に好調なこと、9月の大型連休の受注が非常に良いことなどが挙げられる。
		タクシー運転手	販売量の動き	・5月はゴールデンウィークがあったため、観光客の利用が多かった。3か月前と比較すると、売上は2%のダウンではあるが、前年の5月は3か月前と比較して売上が8%ダウンしていたため、落ち込み幅が小さかった。また、前年の売上実績と比較しても2%増加しているため、景気はやや良くなっている。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・客の来店周期が短くなっており、それにともなって売上も2%程度増加している。

変わらない	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・輸送量全体としては前年よりも落ち込み気味ではあるが、例年と同様に観光トップシーズンに向けて、旅客、車両とも、輸送量が増加している。
	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・株価が上がってきているため、消費者のムードが大変良くなってきている。
	商店街（代表者）	お客様の様子	・必要なもの、欲しいものを客がよく吟味して買うようになっており、衝動買いが減少している。価格にも敏感になっている。前年の消費税増税後から、そうした状況がみられていたが、5月は特にそうした傾向が顕著に表れている。
	商店街（代表者）	お客様の様子	・北陸新幹線開業の影響により、本州からの観光客が減少している。一方、中国系の外国人観光客が増加している。ただ、ホテル以外に目立った効果はみられない。
	商店街（代表者）	お客様の様子	・客の様子をみると、世間で言われているほど、良い方向に向かっていないことがうかがえる。
	商店街（代表者）	販売量の動き	・ゴールデンウィーク以降の観光客の増加を見込んでいたが、大型バスの乗入状況から判断して、国内観光客が前年よりも若干増加している一方で、外国人観光客が今一つ増加していない。ただ、国内観光客と外国人観光客を比較すると、客単価は外国人観光客の方が高いため、全体の売上がアップしているかどうかは判断しづらい。
	一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・当店は昆布専門店であるため、日本人観光客が増えないと厳しい面がある。天候が良かったにもかかわらず、ゴールデンウィーク期間中の売上が大きく減少したこともあり、売上は前年比91.3%であった。選挙のある年は良くないとよく言われるが、本当のことなのかかもしれない。
	一般小売店〔酒〕（経営者）	単価の動き	・販売量についてあまり大きな変動はないが、得意先で客単価の改善している店が大変増えてきている。良い店と悪い店のばらつきはあるが、客単価が上昇している店が増えてきていることが、売上好調の要因となっている。
	百貨店（売場主任）	来客数の動き	・催事場の物産催事を含めて、集客が非常に厳しかった。5月の来客数は前年比95%程度で推移した。
	百貨店（売場主任）	お客様の様子	・来客数は前年比100%と前年並みであるが、定価品の売上が前年比103%となっており、新しい商材に対する客の購買意欲が強まっているとみられる。しかしながら、外国人観光客による売上が前年比255%となるなど、売上全体を支えている状況が継続している。
	百貨店（担当者）	来客数の動き	・客単価、来客数ともに特段の変化がみられなかった。
	百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・前年の5月は消費税増税後の落ち込みが続いていた月であるため、売上が前年比プラスで推移することは当然である。ただ、その中身についてみると、決して楽観できる内容ではなく、むしろ危機感を持って臨むべき状況にある。数字を作っているのは、依然として外国人観光客による売上であり、一般消費者の購買意欲は横ばいか低下傾向にある。
	百貨店（役員）スーパー（役員）	販売量の動き 来客数の動き	・極端な変化はみられない。 ・5月に入ってから、来客数はほぼ前年並みで推移している。売上については、値上げなどにより商品単価が前年から4～5%上昇していることに助けられ、前年並みを維持している。
	コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・消費税増税の影響を受けた前年と比較すると、回復傾向にはあるが、2年前の水準と比べると、大きく落ち込んでいる。特に販売量の減少幅が大きく、食品を中心に無駄な商材の買い控えが続いている。
コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・天候や1次産業の作業時期のずれなどといった要因もあるが、来客数の回復が遅れている。客単価は回復傾向にあるが、ゴールデンウィーク以降は横ばいとなっている。	
衣料品専門店（経営者）	単価の動き	・前年と比べて売上が減少している。暖かくなると、市民や観光客が街を歩くようになるが、必要な物以外購入していない。催事の売上は良いものの、特価品にはあまり手を出しておらず、家計の節約傾向がうかがえる。	

	衣料品専門店 (店長)	単価の動き	・来客数の動きは厳しいが、客単価が伸びている。
	家電量販店(店員)	来客数の動き	・前年比でみると、売上がやや伸びている。
	乗用車販売店 (従業員)	販売量の動き	・販売、修理とも、売上が前年並みであり、景気が上向く気運がなかなかみえてこない。
	乗用車販売店 (従業員)	販売量の動き	・販売量について、思ったほどの伸びがみられない。
	乗用車販売店 (役員)	販売量の動き	・市場に回復傾向がみられない。前年の同時期は消費税増税後のため、悪化傾向にあったが、それをも下回っている。
	自動車備品販売店(店長)	競争相手の様子	・自動車の夏タイヤ市場の売上は前年を3%下回っているが、店舗の車用品全体での売上は4~5月と2か月連続で前年並みとなっている。
	その他専門店 [ガソリンスタンド](経営者)	販売量の動き	・石油製品価格が再び上昇傾向に転じたことで、販売量に影響が出ている。
	高級レストラン (経営者)	来客数の動き	・5月はゴールデンウィークがあるため、飲食業の場合は観光客の入込で売上が左右されることになるが、今年は例年に比べて若干来客数が少なかった。ゴールデンウィーク後の来客数も例年に比べて悪かった。
	高級レストラン (スタッフ)	お客様の様子	・今年はゴールデンウィークの日取りも良く、天候に恵まれたことから、期間中の売上は前年を上回ったが、ゴールデンウィーク後は客の動きが悪く、全体での売上は前年を下回った。月末に若干回復したものの、特に10~25日が例年以上に厳しかった。月末に価格を下げた親しみある洋食メニューを企画したところ、意外と好評であった。昼と夜の客単価をみると、昼の主婦層は変動が少ないが、夕食時の勤めのある女性層の客単価が低下している。
	高級レストラン (スタッフ)	単価の動き	・価格上昇に対して、客から過剰な反応がみられる。
	観光型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・近隣アジアからの外国人観光客が好調である。国内からの団体旅行客も堅調であった。
	タクシー運転手	販売量の動き	・当地全体的に人口が減少しているため、売上が前年を下回る状況が続いている。また、他業種での雇用が増えているため、新入社員を十分に確保できない状況にあり、社員の高齢化と減少が続いている。
	タクシー運転手	来客数の動き	・例年と比べて、温かい日が多く、例年よりも早く桜前線が北上したなかで、ここ3か月の売上は前年並みで推移している。同業他社からも、特に売上が上がったとか、下がったとかいう話もなく、変化が感じられない。
	タクシー運転手	単価の動き	・ゴールデンウィーク後の消費が低迷している。タクシー1台当たりの売上はほぼ同じような水準で推移している。
	通信会社(社員)	お客様の様子	・ここ数か月の客の購買動向をみても、相変わらず消費を控えた様子がみられるなど、お金の余裕のある状況にはない。
	住宅販売会社 (役員)	お客様の様子	・ここ数か月、モデルルームに来訪する客の様子にとりわけ大きな変化はみられない。商談中の客の様子や商談にかかる時間などにも大きな変化はない。
やや悪くなっている	百貨店(販売促進担当)	来客数の動き	・消費税増税前、競合店出店前との比較となるため、単純比較が難しいものの、前年の消費税増税後に落ち込んだ来客数がさらに悪化している。地方都市においては、消費のパイが限られた市場のなかで、競合店との食い合いが生じている。
	スーパー(店長)	来客数の動き	・来客数、客単価、販売量について、前年の消費税増税前の水準に戻ってこない。
	コンビニ(エリア担当)	販売量の動き	・ゴールデンウィークまでは売上、来客数ともに増加傾向にあったが、ゴールデンウィーク後は極端に買い控えが目立っており、売上、来客数とも減少傾向にある。
	コンビニ(エリア担当)	お客様の様子	・1次産業が不調であり、それにもなって加工場などの稼働が落ち込んでいるため、客の動向が鈍っている。
	家電量販店(経営者)	販売量の動き	・前年の消費税増税後の時期よりも、さらに消費が落ち込んでいる。
	乗用車販売店 (従業員)	販売量の動き	・繁忙期の割に、売上の数字が上がってきていない。ただ、前年と比べると良くなっている。

		その他専門店 〔医薬品〕（経営者）	販売量の動き	・消費税増税から一巡して、安定してきたかのようにみえたが、販売量の低迷が生じている。年金の減額がボディブローのように効いてきている。
		観光型ホテル （役員）	来客数の動き	・外国人観光客は増加の一途だが、国内の本州方面からの観光客が漸減しているため、全体の来客数が伸び悩んでいる。
		通信会社（企画担当）	販売量の動き	・週末を中心に様々な割引を追加しているにもかかわらず、個人向けの販売量が伸びてこない。
	悪くなっている	タクシー運転手	販売量の動き	・タクシーの運行本数が前年を上回ってこない。
企業 動向 関連 (北海道)	良くなっている やや良くなっている	-	-	-
		建設業（従業員）	取引先の様子	・前年の耐震改修促進法の改正により、耐震診断で補強が必要と判明した建物について、補強に対する自治体からの補助説明や、改修設計に対する引き合いが始めている。
		通信業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・価格面ではいまだに厳しい要求も少なくないが、受注量、案件数が再び増加傾向に転じており、総じて景況感は一上向き傾向にある。
		その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	受注量や販売量の動き	・5月の販売量は横ばいだが、6月以降、やや良くなると予測する関係者が増えてきていることから、景気はやや良くなってきている。
	変わらない	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・3か月前と比較して、今のところ変動がみられない。
		家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・請負物件の動きはまずまずであるが、卸売が若干停滞気味である。
		建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・民間建築工事は引き続き堅調に推移しているが、土木を中心とした公共工事の発注ボリュームが前年から減少しており、先行きに若干の懸念がある。
		輸送業（支店長）	取引先の様子	・取引先の関東工場などからの受注量は全体的には増えていないものの、極端に減っているわけでもない。主要顧客からの受注量は減っているものの、それ以外の顧客や新規客が増えており、全体としては増減のない状況にある。
		金融業（企画担当）	それ以外	・建設業は公共工事に一服感がある。個人消費は電気料金に加えて、日用品や食料品の値上げも相次ぎ、節約志向が強い。観光関連は外国人観光客が大幅に増加していることで好調であるが、観光バスの運転手不足が深刻化している。
		司法書士	取引先の様子	・不動産取引や一戸建て住宅の建築が依然として低水準で推移しており、業界としての積極性がみられない。
		司法書士	取引先の様子	・新築住宅の着工率が依然として低迷しているため、景気回復の兆しがみえない。土地取引などの不動産取引の成約率も悪い。
		コピーサービス業（従業員）	取引先の様子	・前年と比べると、取引先の業績が横ばいで推移しており、良くも悪くもない状況にある。
	やや悪くなっている	その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・年度が替わり、発注先が様子見をしている雰囲気があり、はっきりとした動きが少ない。
	悪くなっている	その他非製造業〔鋼材卸売〕（役員）	受注価格や販売価格の動き	・設備投資の受注残はほぼ4月で終了しているため、補助金からの投資に期待していたが、ゴールデンウィークの影響が顕著に表れ、販売量、売上ともに減少した。
雇用 関連 (北海道)	良くなっている やや良くなっている	-	-	-
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・求人が増加傾向にある。人材紹介部門においては、経理、若い営業マン、IT技術者の求人が増えていることから、会社経営が改善に向かっていることがうかがえる。また、人材派遣部門においては、コールセンターからの依頼を筆頭に、販売系の人材の需要が高まっている。
		求人情報誌製作会社（編集者）	それ以外	・業種や仕事内容、勤務時間、休日などの募集要項の違いによって、求人決定率が明らかに違ってきている。こうしたことが求人倍率を高めている要因の1つとみられる。

	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・ビザの発給要件の緩和や免税店の増加などにより、中国や台湾、香港、タイなどからの観光客がさらに増加していることで、観光関連業界の求人が堅調に推移している。小売店や飲食店、ホテル業などは日本人だけでなく中国語などに対応できる外国人スタッフを求めている。
	職業安定所（職員）	求職者数の動き	・過去3か月間、有効求職者数が前年から減少し続けており、有効求人倍率が前年を上回る状況が続いている。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人数の増加傾向が続いている。新規求人数は前年を2.4%上回り、17か月連続で前年を上回っている。月間有効求人数は前年を7.0%上回り、26か月連続で前年を上回っている。
	学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・道内企業の採用意欲が非常に高いほか、首都圏や関西圏、中国地方の企業が求人のために来道する件数もとても増えている。採用予定人数が前年より増加している企業も目立っている。
変わらない	職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・零細企業の廃業が多くみられる。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・月間有効求人倍率が62か月連続で前年を上回っているが、その増加幅がこの数か月縮小傾向にある。
やや悪くなっている	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・募集広告の売上が前年比で12%減少した。前年も3%程度の減少がみられたが、ここに来て減速が顕著になっている。上位構成業種は変わらないが、派遣、小売の減少幅が大きく、全体の足を引っ張った。減少傾向にあった飲食が2割ほど伸びたのが好材料ではあった。
悪くなっている	-	-	-